

日本ゾーン

地球時代に貢献する日本の役割を力強く訴えと同時に日本文化の魅力を総合的に情報発信する場として展開します。



環境配慮施設のご案内

- 長久手日本館 A01 間伐材を用いた木柱
- 長久手日本館 A02 生分解性プラスチックの外壁
- 長久手日本館 A03 コクマザサの外壁
- 長久手日本館 A04 竹ケージ
- 長久手日本館 A05 光触媒銅板屋根
- 長久手愛知県館 A06 風力発電(知多市より)
- 中部千年共生村 A07 木質プラスチックの歯車
- 名古屋「大地の塔」A08 楽器「音具」の動力に自然の力を利用
- 中部千年共生村 A09 木質資源の循環利用技術「リグニン」
- 名古屋「大地の塔」A10 光触媒塗装と水蒸およびミストによる冷房負荷の低減

企業パビリオンゾーンA

驚きと夢いっぱいの最新テクノロジーが体感できる企業パビリオン。



環境配慮施設のご案内

- ワンダーサーカス電力館 D01 流木チップの路盤材活用
- ワンダーサーカス電力館 D02 火発電所取水口に漂着したクラゲ・貝等のリサイクル
- ワンダーサーカス電力館 D03 太陽光発電
- ワンダーサーカス電力館 D04 風力発電
- 三菱未来館 D05 外壁に再生材使用
- 三菱未来館 D06 壁面緑化
- JR東海 超電導リニア館 D07 光触媒ドーム
- ワンダーサーカス電力館 D08 ドライミスト
- 三菱未来館 D09 ゴムの木を椅子に再生

センターゾーン

会場の中心に位置し、大芝生、こいの池、大規模施設に囲まれた、観客の大交流を演出するゾーンです。



環境配慮施設のご案内

- グローバル・ハウス B01 オブジェをつけた燃料電池
- 愛・地球広場 B02 太陽電池と風力発電
- 愛・地球広場 B03 バイオラング
- 愛・地球広場 B04 ガラスカレットによる土の団粒化

瀬戸会場

自然と人、人と人とがじっくり触れ合い、語り合う愛・地球博の原点「瀬戸会場」。自然環境の保全に最大限の配慮を払いながら、「自然の睿智」というテーマを具現化するシンボルゾーン。

環境配慮施設のご案内

- 瀬戸日本館 H01 風の(ソーラーチムニー)及び地中熱利用空調システム
- 瀬戸会場ゲート H02 水素供給施設
- 瀬戸ターミナル H03 廃木材チップによる路盤材
- H04 里の自然学校
- 瀬戸愛知館 H05 木材リユース建築



瀬戸会場

長久手会場



遊びと参加ゾーン

いろいろな人々との交流や遊びを通して、環境や平和など地球上のさまざまな問題を、楽しみながら学べるゾーンです。

環境配慮施設のご案内

- 地球市民村 C01 竹と茶による建築
- わんぱく宝島 C02 パナナの茎から紙作り
- 地球市民村 C03 オーガニックガーデン



グローバル・コモン

グローバル・コモンは6つで構成されており、それぞれ大陸を基本とした地域別の構成で、大小さまざまなパビリオンが「愛・地球博」のテーマを個性豊かに展開します。

環境配慮施設のご案内

- グローバル・コモン5(NEDO) G04 新エネルギー設備
- グローバル・コモン4(休憩所) G05 光触媒を利用した冷房負荷低減
- グローバル・コモン3(イタリア館) G06 磨鏡ガラスを利用した床
- グローバル・コモン4(ポルトガル館) G07 木を伐採せずに収穫できる100%天然素材のコルク
- グローバル・コモン5(NEDO) G08 太陽電池パネル
- グローバル・コモン6(マレーシア館) G09 廃棄物ゼロを目指したオイルパームの有効活用
- グローバル・コモン5(アフリカ共同館・ガナ) G10 バイオマスボードによる半乾燥地域の緑化



グローバル・ループ

長久手会場における観客の主動線として、会場をほぼ水平に一周できる空中回廊グローバル・ループは、自然の地形に適するように配置された、グローバル・コモンを結ぶ長さ約2.6km、幅約21mの回廊です。自然環境に配慮した構造とし、段差なども無くした、バリアフリーな回廊で、公式参加国や国際機関が集い、国や文化の違いを超えて地球大交流を実現するためのステージです。

企業パビリオンゾーンB

驚きと夢いっぱいの最新テクノロジーが体感できる企業パビリオン。

環境配慮施設のご案内

- 三井・東芝館 E01 アクア・アールによる空調構造
- 日立グループ館 E02 両面受光太陽電池パネル
- トヨタグループ館 E03 風力発電
- ガスパビリオン E04 屋上緑化



森林体感ゾーン

自然の睿智、自然と人との親密な関係を、約半分自然のままに残している会場で、自然観察ができるゾーンです。

環境配慮施設のご案内

- 遊歩道 F01 木チップ舗装
- 森のビジターセンター F02 環境省「ECO LINK」エコ・リンク
- F03 森の自然学校
- F04 ミストによる周辺温度の低減



ここからサツキとメイの家へ通抜けは出来ません。ここは森の自然学校の体験プログラムコースです。

環境配慮施設のご案内

- グローバル・ループ G01 ループ床材
- グローバル・ループ G02 間伐材によるベンチ
- グローバル・ループ G03 テント部からドライミスト

愛・地球博を通じて自然・環境保護への取り組みを学びましょう。



このエコマップは、宝くじの宣伝普及事業として助成を受け作成したものです。

宝くじの収益は、身近な街づくりに役立っています。

日本宝くじ協会は、愛知万博を応援しています。

開催期間：2005年3月25日▶9月25日 185日間

このパンフレットの制作にあたって下記の環境配慮をしました。

編集・製版・刷版 編纂・製版・刷版 編纂・製版・刷版 編纂・製版・刷版

印刷 印刷 印刷 印刷

[水なし印刷] 水を使わない印刷。インキを水性樹脂で固めて乾燥させることで、水を使わずに印刷できる。環境にやさしい印刷方法です。
[再生紙使用マーク] 高品質再生紙の採用。資源の節約と環境の保護に貢献しています。また、再生紙は木を育てるのに必要なエネルギーを削減し、CO2排出量を減らすのに役立ちます。
[VOC FREE] VOCは揮発性有機化合物。空気中の汚染物質となり、健康被害を引き起こす可能性があります。VOCフリーのインキを使用することで、環境と健康を保護することができます。

[ソイインキ] ASA(アメリカ大豆協会)が推奨する基準以上の大豆由来のインキであり、「Contains Soy Oil」のインキと認定されています。大豆由来のインキは、石油由来のインキの一部を大豆由来のインキに置き換えることで、環境と健康を保護することができます。また、大豆由来のインキは、印刷後の廃棄物を削減し、環境にやさしい印刷方法です。
[VOC FREE] VOCは揮発性有機化合物。空気中の汚染物質となり、健康被害を引き起こす可能性があります。VOCフリーのインキを使用することで、環境と健康を保護することができます。

環境配慮施設・活動のご紹介

日本ゾーン Japan Zone



A01 間伐材を用いた東ね柱(長久手日本館)

間伐は山林の保全のために必要な活動である。しかし、小径で短材であることや節が多いなどの欠点から、建材としての利用は少なかった。これを利用して「東ね柱」を作っている。東ね柱とは、大小の間伐材の丸太9本を束ねて、花模様の断面を持つ柱である。



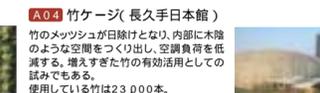
A02 生分解性プラスチックの外壁(長久手日本館)

トウモロコシなどのでんぷんと食品廃棄物を原料として作られたもので、透明なパネルになっており、木製の枠と組み、内側に発泡緩衝材を詰めた断熱性能を備えた構造になっている。また、緩衝材の隙間から外光をゆるやかに取り入れることができ、日中の室内の照明エネルギーを節約することができる。



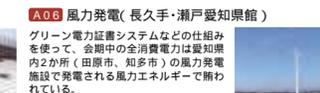
A03 コクマザサの外壁(長久手日本館)

コクマザサが日陰になり、内部に木陰のメッシュが日除けとなり、内部に木陰のような空間をつくり出し、空調負荷を低減する。増えすぎた竹の有効活用としての試みでもある。使用している竹は23,000本。



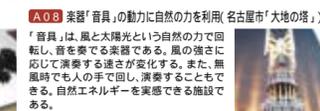
A05 光触媒鋼板屋根(長久手日本館)

酸化チタンを塗った鋼板を用いた屋根材で、光触媒の特徴である親水性を活かして、屋根の上から、水を流し、表面で薄く広がった水が蒸発する時の気化熱で屋根面を冷やし、空調負荷を低減する。



A07 木質プラスチックの歯車(中部千年共生村)

これに使用される木材は木質チップで、高効率乾燥機、乾燥機でチップを乾燥し、高圧熱処理機、乾燥機でチップを成形したもので、プラスチック並みの強度がある。従来は焼却処分していた木屑などをリサイクルして活用。古くなったものは粉砕して再利用したり、土に返すこともできる。



A08 木質資源の循環利用技術「リグノ」(中部千年共生村)

古紙などをほくして繊維状にした後、型枠にこれを乾燥させて成型し、これをリグノフェノール液に漬けて吸収させると木材になる。木材から紙を作るのは誰でも知っているが、紙から木を作ることも出来ることを紹介している。



A10 光触媒塗装と水幕およびミストによる冷房負荷の低減(名古屋市「大地の塔」)

万華鏡の塔の外壁に水を流し、水の流れる模様を演出すると同時に、水の水幕で塔全体を覆うことにより、周囲の温度上昇を抑え、冷房負荷の低減を図っている。水の水幕が塔全体に広がるように、塔の外壁には超親水性を持つ光触媒塗装を施工している。この塗装には、空気中の窒素酸化物を分解し、無害化する効果もある。また、外壁の3辺からミストを噴射し周辺温度を低減する。

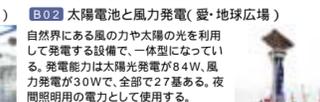


センターゾーン Center Zone



B01 オブジェをつけた燃料電池(グローバル・ハス)

水素と空気中の酸素から電気を作り出す燃料電池を使用した「観時計」を動かす環境にやさしい発電設備である。グローバル・ハスのウエルカムゾーン付近に展示。



B03 バイオラング(愛・地球広場)

愛・地球広場にある巨大な緑化壁。大きさは長さ150メートル、高さ12メートル。生物を意味する「バイオ」(bio)と肺の「ラング」(lung)を組み合わせた言葉。地球温暖化やヒートアイランド現象などの問題が顕在化する中で、住む人にとって心地よい都市づくりを進めることは、これからはますます重要な課題となってきた。「屋上緑化」等が広がる中、更に緑化面積を広げる手段として壁面緑化が目ざされた。ビルの屋上だけでなく壁面を緑化して空調負荷を低減する取り組みが始まりつつある。



再生繊維・植物繊維からできたユニホーム

各パビリオンでは、それぞれ独自のユニフォームを製作しているが、多くが環境にやさしい素材(ペットボトル再生繊維・衣料再生品・竹繊維等)を採用している。

バイオマス食器

「生分解性プラスチック」は、どうも聞こえなごとのでんぷんから作られ、従来のプラスチックに近い性能を有し、使用後廃棄されたときは微生物の分解作用で二酸化炭素と水になり、大気環境にやさしい材料といえる。

バイオマスパナール&サイン

食器だけではなく、パナールやサイン(案内板)も生分解性プラスチックで出来ている。

万博アメダス

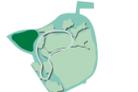
長久手会場内の気温や地表温度、風向風速や二酸化炭素濃度を約20カ所で測定し、ホームページ「万博エコブック」で公開している。緑地の保全や環境配慮型の会場づくりの効果検証や環境教育プログラムに活かされている。

B04 ガラスカレットによる土の団粒化(愛・地球広場)

着色ガラスはリサイクルが困難といわれている。小さく粒にしたものをガラスカレットといひ、土に混ぜ合わせると、土の粒がまとまりやすくなり(団粒化)、通気性が良くなって、土中の微生物の活動が活発化する。その結果、植物が良く育つ。カレットのある土、ない土で植栽し、成長度合いの比較がされている。廃ガラスの有効活用の一例。写真はガラスカレットのモニュメント。



遊びと参加ゾーン Fun Zone



C01 竹と茶による建築(地球市民村)

竹やお茶の古木などの自然素材を使った環境にやさしい建築物で、卵や扇をイメージしたものである。



C02 パナナの茎から紙作り(わんぱく空鳥)

パナナの茎から紙ができる技術を紹介している。パナナの茎は繊維質が多く紙の原料に向いている。また、紙だけではなく衣料への応用も進んでいる。今まではパナナの茎はほとんど利用されず廃棄されていたが、紙作りに使われることによって、森林保全や廃棄物削減に貢献し、また、途上国の産業振興にも寄与できる。紙すきの体験コーナーで使われるエプロンもパナナの茎から作られている。



C03 オーガニックガーデン(地球市民村)

自然の循環作用を応用したガーデン。ナチュラルフード・カフェの厨房から出る排水をバイオジョフィルターで浄化して、排水中の有機物を植物の根や多孔質セラミックスの表面に蓄んでいる微生物が分解、無機化したものを植物が吸収する。浄化された水は池や水田に利用される。排水が浄化される過程を実際に見ることが出来る。

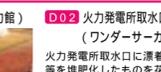


企業パビリオンゾーンA Pavilion Zone A



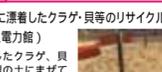
D01 流水木製の路盤材活用(ワンダーサカス電力館)

水力発電所のダムに貯まる流水を細かく粉砕してチップにし、路盤材(ウッドチップ舗装)に使用している。



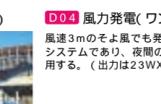
D02 火力発電所取水口に漂着したクラゲ・貝等のリサイクル(ワンダーサカス電力館)

火力発電所取水口に漂着したクラゲ、貝等を堆肥化したものを花壇の土にまぜて使用している。



D03 太陽光発電(ワンダーサカス電力館)

最新型のフィルム基板アモルファス太陽電池を使った太陽光発電システムであり、ウェイツングベースのスポット空調等に利用している。(出力は10kW)



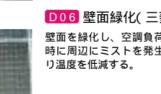
D04 風力発電(ワンダーサカス電力館)

風速3mのそよ風でも発電する風力発電システムであり、夜間の照明用として利用する。(出力は23W×7基)



D05 外壁に再生材使用(三菱未来館)

3R(リデュース・リユース・リサイクル)に基づいて外壁にペットボトル、岩、陶磁器、竹炭などの再生材を使用し、廃棄物削減につなげている。



D06 壁面緑化(三菱未来館)

壁面を緑化し、空調負荷を低減する。同時に周辺にミストを発生させ気化熱により温度を低減する。



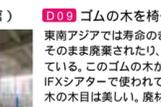
D07 光触媒テント(JR東海 超電導リニア館)

超電導リニア車両を覆う大きなテントおよび人待ち上部のテントに酸化チタンをコーティングした光触媒テントを設置。このテントは、光を吸収すると水がなじみ易くなる超親水性機能を利用し、テント表面に散水して薄い水膜を形成し、水膜が蒸発する「打ち水」効果によりテント表面温度が下がってテント下部の空気を冷却する。



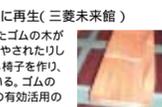
D08 ドライミスト(ワンダーサカス電力館)

水を霧状にして噴射し、気化熱を奪うことにより周辺の温度を低減する。1-2 下げが、頭上3.5mのところにノズルを設け、人待ちの来場者に涼しさを提供する。



D09 ゴムの木を椅子に再生(三菱未来館)

東南アジアでは寿命のきたゴムの木がそのまま廃棄されたり、燃やされたりしている。このゴムの木から椅子を作り、IFXシッターで使われている。ゴムの木の木目は美しい、廃材の有効活用の一例。



企業パビリオンゾーンB Pavilion Zone B



E01 アクア・ウォールによる空調構造(三井・東芝館)

高さ16mの屋根部分から水をパビリオン前面のルーバーをつなげるように流し、4.5mの高さからは水壁に流れ落ちる仕組みのアクア・ウォールにより、体温温度を下げ清涼感を高めるなど来館者に快適な空間を提供する。



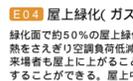
E02 両面受光太陽電池パネル(日立グループ館)

両面受光太陽電池パネルの場合は垂直に設置することができ、取り付けのための架台などの材料が大幅に削減できる。年間発電量は片面の約1.3倍。また、垂直設置の場合は、雪や土埃、鳥の糞などが付着して遮光されることなく、発電量変動率が落ちることを防ぐことができる。また、そのままフェンスなどに活用することもでき、利用分野の拡大が期待される。発生した電力は日立グループ館で使用される。



E03 風力発電(トヨタグループ館)

田原市に建設した風力発電システムで発電した電力を系統電力につながるトヨタグループ館で使用。トータルでCO2排出をゼロにする。1980kWが1基。



E04 屋上緑化(ガスパビリオン)

緑化面が約50%の屋上緑化。外気からの熱をさげ空気調和機を減らす。来場者も屋上へ上がることもでき、体感することができる。屋上中央にはミスト発生装置もある。

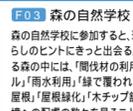


森林体感ゾーン Experience Zone



F01 木チップ舗装(遊歩道)

間伐材をチップに粉砕し、蒸気プレスして固めて、表面が柔らかく、歩いていて快適である。保水性も良くヒートアイランド解消に役立つ間伐材の有効利用の一つ。三菱未来館のエントランスにも同じものがある。



F02 環境省出展「ECO LINK」エコリンク(森のビジターセンター)

「ECO LINK」エコリンクは、未来に続く、美しい地球を後継のために、私たち一人ひとりが自分にできることから始める、そんなきっかけ作りを目指した展示である。



F04 ミストによる周辺温度の低減(日本庭園)

日本庭園奥の「サツキとメイの家」付近の橋の袂からミストを発生させて、周辺温度を低減すると共に、幻想的な雰囲気をもももし出している。



グローバル・ループ Global Loop



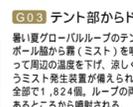
G01 ループ床材

グローバル・ループは全周2.6km、幅2.1m、床材には(1)アラル産のユーカリ森林材(2)愛知産の樹皮材(3)廃材とアラル産の混合材が使用されている。中央の明るい茶色の部分が3で、トラムや緊急車両が通行できるよう両サイドより高強度になっている。



G02 間伐材によるベンチ

グローバル・ループの両サイドには所々ベンチが備え付けられている。これは愛知県で間伐された「間伐材」を使用して作られたものである。



G03 テント部からドライミスト

暑い夏グローバル・ループのテント下の休憩所、ベンチから霧(ミスト)を噴射し、気化熱を奪って周辺の温度を下げ、涼しく休んでもらえるようミスト発生装置が備えられている。ノズルは全部で1,924個。ループの両サイドにテントのあるところが噴射される。



EXPO Eco-Money EXPOエコマネー

「EXPOエコマネー事業」は、レジ袋削減や、市民の「環境配慮行動」に対して「EXPOエコマネー(=ポイント)」を提供し、市民はそのポイントをマイレージとして蓄積することで、特典や商品に交換することや、地域の環境保全活動への寄付等に利用することができる新しい社会システムを実現・実験する事業です。本事業は、博覧会を通じて市民の「環境配慮行動」を啓発・促進することを目的として、「EXPOエコマネー」の発行を会場内・会場外を問わず広範に実施します。

環境配慮施設をご覧になった後、このマップを「EXPOエコマネーセンター」へお持ち下さった方には、エコマネーポイントを差し上げます。

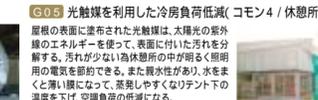
<http://eem.jp/>

グローバル・COMMON Global Commons



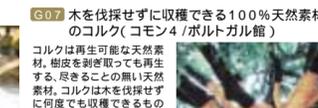
G04 新エネルギー設備(コモン5)

会場内レストランで発生したごみから生成させたメタンガスや木質を高温ガス化したガスを燃料とした燃料電池による発電と太陽光発電を組み合わせた、これに電気を貯蔵するNaS電池を加えた電力システムを構成し、発生した電力を長久手日本館へ送っている。香ヶ丘付近のグローバル・ループ上から見ることが出来る。



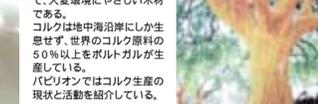
G06 廃鏡ガラスを利用した床(コモン3/イタリア館)

パビリオンの床(900m²)にガラス廃材を混ぜて作られた床材を使用。石英、結晶が砕けた廃鏡ガラス、ポリエチレン樹脂を混ぜ、成型して作られた床材である。今まで廃棄されていたガラスの有効利用。



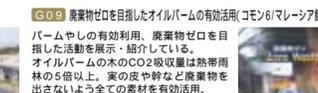
G07 木を伐採せずに収穫できる100%天然素材のコルク(コモン4/ポルトガル館)

コルクは再生可能な天然素材。樹皮を剥ぎ取っても再生できる。収穫することの無い天然素材。コルクは木を伐採せずに何度でも収穫できるもので、大変環境にやさしい木材である。コルクは地中海沿岸にしか生息せず、世界のコルク原料の50%以上をポルトガルが生産している。パビリオンではコルク生産の現状と活動を紹介している。



G08 太陽電池パネル(コモン5)

香ヶ丘付近に設置された太陽電池パネルは、燃料電池との新エネルギー発電プラットフォームとして展示されている。3種類の太陽電池パネル合計で330kWの発電能力があり、新エネルギー発電プラットフォームの予定発電能力の15%程度を担う予定。そしてその電力の大半を長久手日本館で使用。



G10 バイオマスボードによる半乾燥地域の緑化(コモン5/アフリカ共同館・ガナ)

森の自然学校をチップに粉砕した繊維材として使われている木チップ舗装の技術を、ガナの砂漠防止に緑化の推進に応用した活動が紹介されている。ガナ国内の貴重なバイオマス資源の循環利用として期待されている。



瀬戸会場 Seto Area



H01 風の塔(ソーラームニー)及び地中熱利用空調システム(瀬戸日本館)

ソーラームニーとは、外気(地中を通った冷たい空気)を室内に取り入れて、暖かい空気を上部に設置された煙突(ムニー)から外部へ廃棄する自然循環システムである。約4-6 温度を下げる効果がある。写真は煙突上部の窓を開けて熱を逃がしているところ。



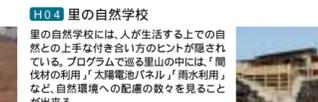
H02 水素供給施設(瀬戸会場ゲート)

会場間を結ぶ燃料電池バスに燃料となる水素を供給するステーション。燃料電池バスは排気ガスと違ってCO₂なども排出せず、排出物は「水」のみ。燃料電池バスに乗車すれば車内から見る事が出来る。



H03 木チップ舗装(瀬戸ターミナル)

森林体感ゾーンに敷かれた木チップ舗装と同じもの。車輪にやさしく、歩いていて感れない。間伐材の有効活用の一である。瀬戸ターミナルを利用される方は体感することができる。



H05 木材リユース建築(瀬戸愛知館)

瀬戸愛知館は会期後に残す恒久施設の上に仮設建物載せている。この仮設部に使用した木材は閉塞後愛知県の小学校建設の資材として活用される。リユースを前提にして進められたプロジェクトである。瀬戸ターミナルを利用される方は体感することができる。



アンケートのお願い

愛・地球博の環境配慮施設等をご覧いただきありがとうございます。ご来場された皆様方のご感想とアンケートにご協力お願いします。アンケートは博覧会協会公式ホームページ: <http://www.expo2005.or.jp/> 日本語のトップページの中の「環境配慮リンク」をクリックして入りください。なお、アンケートをいただきました方の中から抽選で500名の方に環境用語集「ECOノート(A6サイズ192ページ)」を差し上げます。

バックヤードや会場外にあるため、近くから見ることができない場合があります。

「万博エコブック」
主要施設を詳しく説明した「万博エコブック(無料)」をご用意しております。あわせてご利用ください。案内所でもらえます。

2005年 月 日

キッズ・エコツアーに参加した子供たちは、ここにスタンプを押してネ!

その他の施設

再生繊維・植物繊維からできたユニホーム
各パビリオンでは、それぞれ独自のユニフォームを製作しているが、多くが環境にやさしい素材(ペットボトル再生繊維・衣料再生品・竹繊維等)を採用している。

バイオマス食器
「生分解性プラスチック」は、どうも聞こえなごとのでんぷんから作られ、従来のプラスチックに近い性能を有し、使用後廃棄されたときは微生物の分解作用で二酸化炭素と水になり、大気環境にやさしい材料といえる。

バイオマスパナール&サイン
食器だけではなく、パナールやサイン(案内板)も生分解性プラスチックで出来ている。

万博アメダス
長久手会場内の気温や地表温度、風向風速や二酸化炭素濃度を約20カ所で測定し、ホームページ「万博エコブック」で公開している。緑地の保全や環境配慮型の会場づくりの効果検証や環境教育プログラムに活かされている。

再生繊維・植物繊維からできたユニホーム
各パビリオンでは、それぞれ独自のユニフォームを製作しているが、多くが環境にやさしい素材(ペットボトル再生繊維・衣料再生品・竹繊維等)を採用している。

陶磁器による水受けボール
廃陶磁器とは、破損した陶磁器を選別して粉砕したものから50%を混ぜて、新たな陶磁器に再生したものである。今まで埋立していたものをリサイクルして廃棄物を減量している。

ごみの9分別
来場者にはごみの9分別、関係者は17分別を行い、環境に配慮している。分別意識向上の狙いもある。

お土産にも環境配慮
包装紙や台紙の再生使用や縮小化。また、レジ袋削減の努力がもたらした環境配慮推進 公式記念ショップ。写真は台紙を縮小したものである。

会場間燃料電池バス
水素を燃料として電気を作り出して走る燃料電池バスは、次世代の車である。排出物は、ガソリン車の場合、地球温暖化の原因となる二酸化炭素や人体に有害な窒素酸化物などを排出するが、燃料電池車は「水」だけ。低騒音、低振動でもある。

豆知識

竹
日本では竹が増えすぎて竹藪対策が指摘されている。これら竹の有効活用を進める必要がある。

間伐材
木の成長に伴い混みすぎた林の立木を一部伐採することを間伐といひ、この伐採された材木のことを間伐材と言ふ。間伐をすることによって豊かな森林の再生ができる。

風力発電
自然界にある風の力でプロペラを回転させ発電する設備であり、環境に優しいエネルギーである。

光触媒
酸化チタンが触媒となって光のエネルギーを利用して起こる分解反応。脱臭、抗菌、防汚などの機能があるが、会場では超親水性の機能を応用して屋根を冷やし、空調負荷低減を図った設備が多い。

燃料電池
水の電気分解の逆反応を利用したもので水素と空気中の酸素から電気を作り出す。排出物は「水」であり、化石燃料を燃やして発電するのとは対照的に、高効率で、低騒音・低振動、二酸化炭素などの排出が少ないと環境に優しいエネルギーである。

ミスト
人待ちや大勢が休憩する場所に粒の細かい霧(ミスト)を発生させる設備を設け、蒸発するときの気化熱で周辺温度を下げるもの。規模の大小も含め会場内に十数か所ある。